

# 令和4年度 わかふじ幼稚園 学校評価報告書

2022年12月9日

わかふじ幼稚園

今年度、本園では園が抱える課題を把握するために、日々の園運営の中で幅広い「全方位型」の点検を行うべく「自己評価」および「学校関係者評価」を実施した。

## 1. 本園の教育目標

健康で、明るく、素直な、なんでも一生懸命に頑張る子を育成する。

指導方針：『幼稚園教育要領（文部科学省）』に準拠すると共に、次の事項を重視した指導をめざす。

- ・園児が遊んで取り組めるような雰囲気や環境づくり。
- ・いろいろなことをやってみようという意欲を持たせるようにする。
- ・仲良く、ともに喜び合う気持ちを持たせるようにする。
- ・小さな発達を大切にし、根気よく繰り返し指導する。

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

2022年度年間目標：クラスをこえた友だちとの関わりを大切にしよう。

- ・他のクラスや先生にも自分から挨拶をしよう。
- ・どの学年の子でも名前呼び合える友達になろう

2022年度クラス目標：

年少 園生活の流れや生活の仕方が分かり、自分で身の回りのことをしようとする。

年中 遊びを通して自己を発揮し、友だちとかかわりながら相手の気持ちに気づき、受け入れられるようになる／活動にめりはりを持ち、集中できる時間を延ばしていく。

年長 友だちと話し合い、協力し、工夫し、自分たちで主体的に遊びや生活を進める。

## 3. 評価の経過

2022年1月	2022年度年間予定の検討
2022年2月	それぞれのクラスごとに2021年度年間計画ふりかえりを実施
2022年3月	2021年度自己評価実施／2022年度の教育目標設定
2022年5月	それぞれのクラスに応じた年間指導計画の立案
2022年9月	年間指導計画の1学期ふりかえりに基づき2・3学期指導計画の再構築
2022年11月	学校関係者評価としての「園生活ふりかえり」保護者アンケート実施
2022年12月	2022年度自己評価実施、まとめ会議、評価報告書の作成

## 3. 評価項目の達成および取り組み状況

今年度の自己評価は、8評価指標のすべてにおいて達成および取り組み状況を評価した。評価指標は「教育目標・教育方針」、「教育課程・指導計画」、「教育環境」、「教育の内容・方法」、「教師の役割・資質向上」、「子育て支援」、「地域住民や関係機関との連携」、「運営管理」であり、各指標につき、それぞれ6項目の評価項目が達成されているかどうかの段階評価（4段階評価）、およびその評価結果の根拠・理由を記述した。また、改善を要する点や課題を併記した。評価基準は4段階（A 十分達成されている／B 達成されている／C 取り組まれているが、成果が十分ではない D 取り組みが不十分である）で行った。

#### 4. 評価指標の達成および取組状況

評価指標	評価	取組み状況
教育方針	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神・教育目標については、創立以来継続しているポリシーであるが、前年度にその解釈を話し合い教職員間で、その基本的な考え方について理解を深め、共通認識することの大切さを再認識した。</li> <li>・教育目標の具体的な内容については、教育課程・指導計画との関連性を意識していくように、検討を重ねている。</li> <li>・今年度の年間目標も、これまでを踏襲し「クラスをこえた友だちとの関わりを大切にしよう」とした。</li> <li>・子ども主体の保育を考えていく上で、建学の精神・教育目標との連動性を明確にしていく。</li> </ul>
指導計画	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の指導計画の改善点を、今年度の指導計画に生かしていくことができた。</li> <li>・1学期のふりかえりによって、年間指導計画を見直すことができたので、年度後半の指導計画を修正し、調整し、再構築することができ、クラスの状況に即した実践的な指導計画として活用された。</li> <li>・地域におけるCOVID-19の感染状況や、国や自治体の方針に照らして、活動方法を常に検討してきて3年目となった。今年度はクラス単位分散型活動（入園式・保護者参観・夏季保育「お楽しみ企画」・運動会・スケートボード体験教室・誕生会・園庭やホール使用・降園時刻の調整）を原則とし、状況に応じて中止した活動（9月の祖父母参観・9月の未就園児教室1回）もあり、随時の対応を行った。</li> <li>・運動会・リズム発表会・作品展における活動内容の難易度、年齢に即した活動内容の吟味を教員間で相互調整した。</li> <li>・子ども主体の活動実践については、個々の教員の裁量で工夫していることにとどまらず、教職員の共通理解を深めたい。</li> </ul>
教育環境	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立70周年記念事業「園舎新築・園庭整備」大規模工事に伴い、6月中旬までに新園舎への引越、6月下旬からは第2期解体工事、9月中旬以降、外壁や園庭整備があり、園庭使用が制限された。この間、本町小学校の校庭使用についての協力を得た。</li> <li>・新園舎の環境構成について教職員間で日常的に意見交換が多かった。ホールの有効活用の調整、年少と年中、年中と年長、年長と年少という2学年の異年齢交流を毎月行った。</li> <li>・年間予定、月案、週案、保育日誌、申合せ記録の日常的活用が定着し、朝ミーティング、保育後申合せ会議により、教職員間の情報共有に役立った。今年は、毎日の保育実践の口頭報告の共有も重視した。</li> <li>・年長児のキャリア教育として、歯科医・薬剤師・大工・司書・消防士（消防所見学）の協力を得た。年長児のSDGsへの取り組みとして、みかん狩りみかんからあぶり出し・Fブレイス図書室の定期利用を開始した。</li> <li>・コロナ禍と園の大規模工事で、自然や社会と触れる環境が制限されたが、園全体としてさらに工夫を必要とした。</li> </ul>
教育の内容・方法	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期は、きゅうり・おくら・つるなし隠元豆・ラディッシュ、2学期は、レタス・キャベツ・玉ねぎ・小松菜など、各クラスがプランターで野菜を育て、収穫し、食する経験をした。メダカの餌やり、植物の水やり当番という飼育や栽培を通して、観察力や、食への関心へと広がった。経験したことを絵本からの知識も融合していくよう関わった。</li> <li>・年齢なりに、集団で遊ぶ楽しさをに気づき、さらに発展させていきたい。</li> <li>・描画や製作について、意欲的に取り組み達成感につなげて行くよう働きかけたい。そのためには、子ども自身が気づくような環境構成を工夫し、子ども達の表面に出ない部分に注意を向け、ひとりひとりの内面を取れるように務めた。</li> </ul>
教師の役割 資質向上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面やオンラインも含め、年間を通して、例年以上に教職員が積極的に研修に参加し自己研鑽に励んだ。</li> <li>・研修結果は、報告書の提出、園の保育全体に還元できるよう園内研修にて報告し、具体的実践につなげるよう発展させた。</li> <li>・特別支援教育は、全教職員が基本的知識の学びを継続し、個に合わせた対応、インクルーシブ教育実践を深めている。</li> <li>・毎年の園内公開保育では、保育の力量をふりかえり、子どもを見る視点を広げ、相互に学びあい、保育の質向上を図った。</li> <li>・幼児期の体力向上は、運動遊びへの取り組みとして、次年度以降の主要プロジェクトとして計画実施する準備を進めている。</li> <li>・研修を生かし、遊びの中で学ぶ、遊びを通して学ぶことに関しての教職員間での意識の共有を行っている。</li> </ul>
子育て支援	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児教室を定期的に2回/月開催した。主担当教員が統括し、運営は園全体で協力し実施した。</li> <li>・旧園舎の解体および園庭整備の工事にあたり、7月～12月は地域の親子に向けての園庭開放を一時中止している。</li> <li>・今年度から平日の早朝保育を開始したが、長期休業期間中の早朝対応には至っていない。</li> <li>・未就園児がいる保護者に向けての園見学は、予約制で随時行っている。</li> <li>・行政などから届いた保護者向けのイベント、発達相談、講座、講演会、子育て情報は、園内掲示、一斉メール、配布物として情報提供している。</li> <li>・市の保育課、子ども家庭課、保健所、園医、園薬剤師など、必要に応じて連絡・問い合わせをしている。</li> <li>・地域の療育・相談機関、近隣小学校とは、必要に応じて連絡・連携をとっている。</li> <li>・保護者からの問い合わせには随時対応しているが、保護者が気軽に意見を出しやすい環境を検討していく必要がある。</li> </ul>
地域住民や関係機関との連携	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での3年目となり、ひきつづき活動の制限が多かった。卒園生の同窓会中止（4年生・3年生・2年生）、「保護者会にこにこ祭り」中止、祖父母参観中止、相生町子どもみこし中止だった。今年度、状況を見て実施する予定にしていた地域の高齢者交流も実現できなかった。</li> <li>・近隣の小学校に対しては、毎年の年長児小学校見学に加えて、幼稚園作品展に小学校先生に案内、年長担任による小学校授業参観の実施をした。現状と合わせて、小学生が幼稚園に来る、地域とふれあう経験をふやす、地域子どもの家などの利用など検討を行っている。</li> </ul>
運営管理	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教職員の採用枠を増員し、保育の質を向上する新たな取り組みへの発展を目指すとともに、有給休暇の消化への対応、園務の効率化を図りつつ、残業縮減を図った。</li> <li>・現金管理は記載手順の共有、ダブルチェックを励行し、収支に間違いがないように努め、園務分掌を随時進めた。</li> <li>・毎日、保育前後の打ち合わせで、情報共有がしっかりできている。定例の預かり保育担当者会議、職員会議を活用している。</li> <li>・新園舎になり数か月経て、日々の保育の中で気づいたことはすぐに共有し、よりよく過ごせるようにしたい。預かり保育と教育時間の園児への対応についての連携も一層深めていく。</li> </ul>

#### 4. 総合的な評価結果

各教職員が自己点検評価をした結果を点検評価会議で総括し、評価項目における達成、園の取り組み状況について、評価レベルの判断をした。その結果、園が当年度の教育目標のもと、評価項目についての到達度については、「十分達成されている」という A 評価だったのが、「教育課程・指導計画」、「教育の内容・方法」、「教師の役割・資質向上」、「運営管理」という 4 指標であった。また、「達成されている」という B 評価だったのが、「教育目標・教育方針」、「教育環境」、「子育て支援」、「地域住民や関係機関との連携」という 4 指標であった。

#### 5. 今後の取り組み課題

自己点検評価により、教員自身の課題、学年の課題、園の課題が明らかになってきた。それらを内省した上で、次年度に向けての目標を持ち、教育実践を積み重ねていきたい。自己点検評価において、教職員から提起された課題のいくつかを記述した。

##### 「教育目標・教育方針」

- ・今後も話し合いを重ね、教育目標や教育方針の解釈や考え方について職員間で共有していくようにする。
- ・園の良さを生かした保育を考えていく。
- ・教育目標をクラスに掲示して意識づけていく。
- ・研修で学んだことを各教職員の裁量で取り入れて保育をしているが、クラスごとに解釈の違いが生じないよう、子ども主体の保育について、園として足並みをそろえて教育計画を進めていくことを大切にしたい。

##### 「教育課程・指導計画」

- ・園外保育で地域の公園に行くなど、湘南の地域で海を感じられるような園外活動もあってよい。
- ・地域の自然など園外保育を取り入れたい。
- ・子ども主体を意識した指導計画を引き続き検討していく。

##### 「教育環境」

- ・一緒に遊ぶことが気軽にできるよう異年齢交流を更に増やしていきたい。
- ・子ども達の小さな変化を見逃さず家庭との連携をはかる。保護者との関わりも大切にしていきたい。

##### 「教育の内容・方法」

- ・描画や製作について、子どもが意欲的に取り組み、子ども自身の達成感につながるようにしたい。
- ・想像力を広げ、創造力が深まるような保育の広がりや日常のさまざまな経験をつなげていきたい。

##### 「教師の役割・資質の向上」

- ・3年間を通して幼児期の体力向上、運動遊びへの取り組みは、重点的保育計画として準備を進める。

##### 「子育て支援」

- ・保護者と一緒に育てていく意識をこれまで以上に高め、保護者が園に相談しやすい状況を整える。

##### 「地域住民や関係機関との連携」

- ・幼小接続事業、地域へのアウトリーチなど、COVID-19 の最新情報感染状況などを踏まえて実施する。

##### 「運営管理」

- ・新園舎および園庭整備後の環境に対応した、消防計画書、災害や事故報告書の作成を行う。

#### 6. 学校関係者の評価

学校関係者評価として「園生活ふりかえり」保護者アンケート（2022年11月Web調査）で実施した。設問は「お子さんについて（6問）」「園からの情報発信について（7問）」「教育内容について（9問）」「園の機能について（5問）」の計27問であった。このほかに任意で自由記述を求めた。回収率は85%だった。回答形式は4択（そう思う／ややそう思う／あまり思わない／まったくそう思わない）であった。

各回答に1点～4点を付与し得点の高いほうが、「そう思う」程度が高くなるように数値化した。理論上の平均値は2.5である。項目ごとに平均値、標準偏差（SD）、最大値、最小値を表に示した。

園生活ふりかえりアンケート	保護者				教職員
	平均	SD	最大値	最小値	平均
<b>園に通っている、お子さんについてお伺します (6問)</b>					
お子さんは、園に行くのを楽しみにしている	3.8	0.5	4	2	3.9
お子さんは、遊びや生活の中で決まりを知り、守ろうとする態度が育ってきている	3.7	0.5	4	3	3.7
お子さんは、園でしたことを家でもやったり、話したりする	3.6	0.6	4	2	3.3
お子さんは、園で自分の力を発揮していると思う	3.3	0.7	4	2	3.4
お子さんは、その発達なりに、良いこと・悪いことの判断をするようになってきている	3.7	0.5	4	3	3.4
お子さんは、友達と過ごす楽しさを味わっている	3.8	0.5	4	2	3.7
<b>園からの情報発信についてお伺します (7問)</b>					
園は教育目標、保育の方針、内容について伝えている	3.4	0.7	4	1	3.7
園は、家庭への連絡を行い、意思の疎通を図っている	3.3	0.8	4	1	4.0
園は、お子さんの様子についての相談や連絡に適切に対応している	3.6	0.7	4	1	3.9
安全対策、感染症予防など園から発信する情報で、園の取り組みを伝えている	3.2	0.8	4	1	3.7
園でのお子さんの様子は、行事、参観日、クラス便りなどで知ることができる	3.6	0.6	4	2	3.6
園は、お子さんのケガや、何かが起きた時など、分かりやすく状況を伝えている	3.6	0.7	4	1	3.9
園は、保護者からの問い合わせに対して、誠意のある対応をしている	3.5	0.8	4	1	3.6
<b>教育内容についてお伺します (9問)</b>					
園はお子さんにとって必要な保育や活動がしやすい環境を用意しようとしている	3.5	0.7	4	2	3.7
園は避難訓練や安全指導（交通安全など）などで、お子さんが安全に対する意識や習慣が身につくよう務めている	3.7	0.5	4	2	3.9
園は、さまざまな表現活動（絵画・製作・音楽など）を行っている	3.5	0.6	4	2	3.9
園は、栽培物や給食などで、食に対するお子さんの興味や関心を育てている	3.6	0.5	4	2	4.0
園は、お子さんの発達に応じた経験ができるように配慮している	3.6	0.6	4	2	3.7
教職員は、ひとり一人を理解し、性格や特性などに配慮し、対応している	3.7	0.6	4	2	3.7
園では、教職員同士が協力して活動している	3.7	0.5	4	3	3.6
園は、年齢を超えて子ども同士の関わりを持てるようにしている	3.5	0.7	4	2	3.7
園は、工夫して行事を行っている	3.6	0.7	4	2	4.0
<b>園の機能についてお伺します (5問)</b>					
園は、防犯、セキュリティ、登降園時の安全に配慮している	3.2	0.9	4	1	3.7
園は、保護者と定期的に話し合う機会（送迎時、個人面談など）を設けている	3.5	0.8	4	1	4.0
園は、個人情報の保護について配慮している	3.7	0.5	4	2	3.9
園は、建物や遊具などに、お子さんに合わせた安全対策をしている	3.3	0.7	4	2	3.9
園は、未就園児プログラム・園庭開放・預かり保育など子育て支援を行っている	3.7	0.5	4	2	4.0

結果は、各項目で平均 3.2～3.7 という高評価を得た。設問内容では「お子さんについて」の平均値は 3.7、「園からの情報発信について」の平均値は 3.5、「教育内容について」の平均値は 3.6、「園の機能について」の平均値は 3.6 だった。教職員への同様の調査結果と比較すると、保護者も教職員も高評価だったが、「園からの情報発信」、「園の安全対策」では、園側が実施していると思っている程、保護者は同様に感じているわけではないと示唆された。また自由記述（任意）では、41%の回答者から子どもの成長や発達に感謝の思いが記述された。一方、33%の回答者から園への要望が記述され、園舎新築・園庭整備工事について、安全対策について、園からの情報発信について、教育内容についてなどの指摘があった。「園生活ふりかえり保護者アンケート」結果は、教職員の自己評価を客観的にとらえなおすことにつながり、幼児の育ちを支える園の質の向上のために、園の現状と課題について、園が家庭とともに共通理解を深めていくための貴重な機会となった。